



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

公益財団法人 友愛

〒112-0002

東京都文京区小石川

1-10-13 小石川文ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-Mail:you-i@yuai-love.com

http://yuai-love.com

編集人：羽中田元美

隔月1回 10日発行

会費(4月～3月)

個人／3,000円以上

法人／10,000円以上

2023年度事業報告まとめと70周年記念総括

定款の一部変更実施・評議員会にて承認

理事・監事勉強会開催・公益法人法の一部改正を受けて

創立70周年記念式典を含む、記念事業を無事終え、国会図書館を始めとする全国都道府県立図書館などへ記念のDVDセットの贈呈も終了した。OEJABへの派遣を始め、様々な事業が活動を始めた。そうした2023年度一年間の事業報告が纏められた。今号では冒頭の総括をご紹介します。評議員会承認後全てをHPに掲載します。

2023年度総括

創立70周年事業

2023年の事業報告として、真つ先に挙げたいのは本財団が創立70周年を迎え、その記念式典が行われたこと、そして70周年を記念した楽曲『希望の道』が渡邊康雄氏によって作曲され、その演奏及びこれまでの軌跡を辿った動画『未来へつなぐ』が作成され、記録的資料と共に納められたDVDセットが完成したことである。

友愛ユニオンの活動

併せてその派遣員を中心とした「友愛ユニオン」の活動も活発になっており、70周年記念式典の折には受付を担当し、訪れる方々から「隔世の感がある」との言葉をいただいている。友愛ユニオンからは、理事、評議員も誕生し、本財団の活動の充実を図ってくれている。

OEJABとの連携

幸い、これを継承させていく若い力も育ってきている。今年度実施することができたOEJAB派遣も、本年度は過去最高の応募者

定款第31条の一部を変更

変更提案理由

公益法人法に基づく現行定款にあるように、「業務執行理事」を理事会で選定し、「業務執行理事」をおくことが必要と考えられる。現状では、副理事長、常務理事を選定していないため、業務執行理事が決められていない状況にある。

現行定款(抜粋)

第31条の4

理事長をもって公益社団法人及び公益財団法人に関する法律上の代表理事として、副理事長、常務理事をもって同法第197条において準用する同法第91条第1項第2号の業務執行理事とする。

変更案

このため新たに「執行理事」の役職名称を設け、執行理事を以て業務執行理事とする方法を取り入れることとした。

変更後定款(抜粋)

第31条の4

前項の理事長をもって公益社団法人及び公益財団法人に関する法律上の代表理事とし、副理事長、常務理事、執行理事をもって同法第197条において準用する同法第91条第1項第2号の業務執行理事とする。

施行

第7回臨時評議員会(書面による決議)にて協議され、4月19日を以て定款の一部変更が施行された。

*HPでは定款始め諸情報を提供しております。

<https://yuai-love.com>

金沢俊弘監事を講師に勉強会開催

4月25日(木)友愛サロンにおいて、理事・監事向けの勉強会が開催された。これは公益法人法の改正を視野に、注意点及び運営に活かせる点を学ぶもので、現在担当する事業が割り当てられている理事(井田安信理事/ミヤンマー農業指導者育成事業・西川伸起理事/OEJAB派遣及び受入事業・攪上哲夫理事/友愛小論文コンテスト事業・後藤大智理事/友愛ユニオン及びガバナンス)及び監事(海方亨監事)が出席。

公益法人法に詳しい金沢俊弘監事が講師として、豊富な資料を基に、詳しい解説を行った。

対して、公益法人法に精通している金沢監事は、現実にあつた例、卑近な例などを挙げて解りやすく説明してくださった。

先の内閣府立ち入り検査の折には、当財団の現状に関しては、概ね良好との評価をいただいている。今回の勉強会をふまえ、更に法令遵守及び組織体制確立に努め、健全な財団運営を進めることを合い言葉に、勉強会を終了した。

真剣に講義に聴き入る参加者
明るい日差しの中に、全員の熱意が漂っている



参加者・左から海方監事・西川理事・攪上理事・後藤理事・羽中田事務局長・井田理事



金沢俊弘監事 永年に亘り公益法人運営に携わり、公益法人運営に関して「生き字引」的存在



友愛時評

▼新型コロナウイルスが感染症法上の5類となつて1年、コロナ禍の窮屈な日々が思い出せなくなつていく。日本では今でも日常的にマスクを着用している人が少なくないが、検温や消毒は忘れがちではないだろうか。▼犠牲者が多く出た国の中には、石碑を建立したり慰霊祭を行ったところもあるが、日本ではそうした動きはほとんど見られない。震災については、各地に伝承館が建てられ、未来の災害に対する教訓を伝える警鐘を鳴らし続ける必要性が共有されている。感染症についても、次なるパンデミックの到来は確実であり、今次の新型コロナウイルスに関する政策や対策を検証し、次世代に教訓として伝える必要性は同じなのに、と急速な「風化」を嘆く専門家もいる。▼もっとも、この国の歴史を遡れば、「疫病消除」のために建立された八坂神社があり、「疱瘡神」や「麻疹神」と擬人化して信仰の対象とするような風習も各地に存在してきた。とはいえ、ウイルスや公衆衛生に関する科学的知見が高まった現代では、そうした「集合的記憶」の仕方にはならないだろう。▼さらに論争的となるのは、「人災」に関するメモリアルである。その最たるものは戦争であり、慰霊碑のあり方は常に議論を呼んでいた。▼戦争に関する「集合的記憶」の仕方はまさに政治であり、国際問題ともなる。芥川龍之介の『羅生門』ではないが、各々の目から事物は異なつて捉えられ、かつ記憶される。国の中にしろ、国家間にしろ、そうした異なる「記憶」の擦り合わせは永遠の難問かもしれない。(ヒゲ)

2023年度OEJAB派遣員報告 新しい発見 新鮮な体験 見て聞いて 沢山勉強しました

3月3日（日）から12日（火）まで、2023年度OEJAB派遣が実施されました。今回も各人の見たものの経験したことを、それぞれが撮影した写真と共に報告書として提出して頂きました。6名の個性豊かなメンバーが体験したことは、気になるところです。十人十色とはよく言ったもので、それぞれの視点、考えが盛り込まれた素晴らしい報告書が揃いましたのでご紹介します。6名の独自性溢れる報告書をお楽しみください。（学校学年は派遣当時を記載）

ウィーンでの共生社会と友愛思想

東京大学理学部4年 出倉 正啓

今回の研修でお世話になったOEJABの関連施設として、老人ホーム・職業教育センターを訪ねた。老人ホームは個室も相部屋もかなり広々と感じられた。個人が支払う額は最大でも年金額の8割に抑えられ、残りはウィーン市が支払うという制度であり、高齢ではないが若年性認知症により1人での生活が難しい人などの受け皿にもなっていた。バス

タイムには子ども時代を想起させる花の香りを使用など、最大額を抑えつつも入所者の高いQOLを保証する施設のあり方は、日本の制度設計を考えるうえで非常に参考になった。教育センターでは様々な年齢層の方が金属加工やIT・ドイツ語の訓練を受け



ベルベレーデ宮殿の前で、全員でジャンプ！この躍動感を以て、これから道を切り開いて行きます！写真左から金子紗也佳さん・大野誠尚さん、已上小楽咲さん、三浦愛佳さん、出倉正啓さん、矢野由佳さん



晴天のカールス教会。この日以降は曇天であった



議会前でのガザ侵攻に対するデモ

府では移民と統合政策についてのプレゼンを聞いた。オーストリアは歴史的に多民族で構成されており、移民を受け入れる土壌があるという説明がなされた。日本では難民受け入れをかなり絞っているという議論がよくされるが、オーストリアは人権重視であり、出自や宗教を問わず難民や亡命者を受け入れる方針が維持され続けているようだ。高齢者のあり方も、移民受け入れに対しても、相互理解・相互扶助たる「友愛思想」を反映した「共生社会」を体現する現場を毎週開議が行われるテーブル。連邦首相府にて



国連宇宙部にて。インターン中で東大の留学生バン グラデシュ人と



見学し、まさに日本も見習えるあり方であると感じた。一方で、議会の前では大音量でガザ侵攻に対するアラブ系住民によるデモも見られた。移民の文化と日



国連ウィーン本部回廊にて

本の土壌がぶつかる場面（昨今の埼玉におけるクルド系住民の問題など）はこれから増えると思われるが、そのような事態に対して制度的にも心情的にもどう対応していくか議論を重ねていくことが、共生社会に向けた重要な視点であると考えた。



表裏一体の「技術」

東北大学大学院2年 大野 誠尚

「技術と社会の架け橋」として世の中に貢献したい」という想いから、私は理系から総合商社を志し、4月から働き始めました。本オーストリアの派遣プログラムに応募した理由は、現場に來なければ分からない1次情報を収集し、真の社会課題を知りたいと考えたためです。実際に参加し、最も印象に残っている2つの

1つ目は、オーストリア最大の公益団体であるOEJABの職業訓練施設の訪問です。オーストリアには、シリアやアフガニスタンからの難民だけでなく、様々な理由で学校に通うことができない人々が数多くいます。OEJABの職業訓練施設では、年齢を問わず、このよう



国連本部前でジャンプする図
全世界の平和と益々の飛翔を祈念し跳びました。日頃の筋トレの成果が出たジャンプです

ず、このよう
な人々にガラ
ス加工や3D
プリンター、
電気回路の整
備などの専門
的かつ実用的
な教育が提供
されています。
様々な理由
により、これ

まで定職に着けなかった方々が、生き生きと授業を受けている光景がとても印象的でした。このように、様々な専門的「技術」が、新たに雇用を生み出す瞬間を目の当たりにしました。2つ目は、国連のCTBT訪問です。世界337か所から送られてくる核爆発の兆候を監視するための装置を見させていただき、システムといった「技術」により、我々の生活が密かに守られていることを実感しました。一方で「技術」



CTBTの監視モニター。全世界の核の使用状況がリアルタイムで解る仕組みになっていました



日本国大使館にて公使と一緒に記念撮影。気さくに疑問点などお答えいただきました



ずっと食べ続けた「グーラッシュ」の写真。合計10皿ほど食べましたがまだ飽きません。日本で探検中です



「サウンドオブミュージック」の舞台ザルツブルグで集合写真。皆なりきってポーズをしています

最後に、初めてウィーンの訪問で「技術」は使っている方々により、核爆弾のように多くの人々の脅威にもなりうることを痛感しました。

以上のように、私はウィーンの訪問で「技術」は使っている方々により、核爆弾のように多くの人々の脅威にもなりうることを痛感しました。

最後に、初めてウィーンを訪れた率直な感想を述べさせていただきます。ウィーンの街並みは想像をはるかに超えて美しいものでした。また、さまざまな食べ物も最高に美味しく、飽きることなど無くあつという間に最終日を迎えました。私は特に「グーラッシュ」という煮込み料理にドハマリです。

世界を知った10日間

九州大学共創学部3年 三浦 愛佳

「ウィーンじゃないみたい。」空港からのトラムで初めてウィーンの街を見た私は驚きました。建物は中世風の石造りで、思い描いていたヨーロッパの街並みそのもののなかに対し、そこにいる人はヨーロッパ系の人たちに限らず本当に多様な人たちが、自然な雰囲気で行き来していたからです。日本の暮らし、風景にのみ慣れ親しんでいた私は、この光景に目を奪われました。この出来事に始まり、私にとって今回の研修は「世界を間近に見て色々考える」ことの連続でした。



初めて中心街を訪れたとき。ウィーンでは道路が広く、開放感がありました



市街を走るトラム。オーストリアのトラムや電車は様々な種類があり、楽しめました

し、滞在中に10皿ほど食べました。食べ物の違いは、文化の違いの象徴のような気がします。そこだけは、相互尊重、相互理解を果たせたと思っています。

本来の私が目指す分野でも、十分に友愛理念を発揮して活動していくことを心に秘めて、報告いたします。

かげで、現在暮らしているウィーン(現地)のコミュニティに入りやすく安心して暮らしている。しかし同時に、ウクライナの文化やコミュニティも保持していきたいと思っている」と言っていたのが印象的でした。

また、OEJABの職業訓練施設や政府施設では、移民の人たちは、同じ国から来た者のコミュニティに留まる傾向があり、そのため、就労機会の獲得等から遠くなってしまう。という悩みについて聞き、移民の方たちの、元々の文化やコミュニティも尊重しつつ、現地社会への統合を図ることの重要性、難しさを学びました。

今回の派遣



国連での一枚。卒業式を控えていた派遣メンバー達に便乗して私も卒業式風にバシッと写真を撮ってもらいました



OEJABの職業訓練施設近くのショッピングモールでの昼食。色んな国の料理が楽しめる、ラーメンを選んでいるメンバーもいました



聖ステファン大聖堂。外見も内装も圧倒的な美しさで、ヨーロッパの歴史の重みを感じました



ウィーンやドナウ川のパノラマを一望できる「ドナウタワー」 高低差15mの滑り台はスリル満点でした



OEJABの教育施設。メンタルヘルスケアについて知見を持った人が美術を教えています



連邦首相府にて白熱した議論を展開する一行。緑のテーブルクロスには議論がまとまるようにとの意味があるとか



国連食堂にていただいたランチ。バイキング形式で毎日世界中の料理を試すことができます



ウィーン国立劇場にて念願のオペラ鑑賞。初めて観る総合芸術。歌声、舞台、演奏、空間のすべてに圧倒されました

オーストリア社会から学ぶ対話のあり方

中央大学法学部2年 已上 小楽咲

オーストリアは、音楽と芸術の中心地である首都ウィーンが有名なだけでなく、多民族国家としての歴史を持ち、多様性溢れる国として知られています。

10日間の研修を終えて、その煌びやかな印象の背後には、他者との衝突を辞さず対話を続けようとするオーストリア人の地道な努力が積み重ねられていることを学びました。

これに気づくことができたのは、行く先々で私たちのために意見交換の時間を設けてくださっていたからです。

ここでは特に印象的だったOEJABの教育施設。メンタルヘルスケアについて知見を持った人が美術を教えています

た2つの場面について報告させていただきます。

1つ目は、社会統合政策の立案に携わる方と、難民の問題についてお話ししたときのことです。多くの難民は同じルーツを持つ者で構成されるコミュニティに属し、コミュニティ外の人と積極的に関わろうとしないため、貧困の連鎖から抜け出せないという問題があるそうです。そこで私は「彼らがコミュニティ外に出ることを怖いと思っているとしたら、彼らに無理にコミュニティ外の人と接点を持つってもらふ必要があるのか？」と質問しました。すると「接点を持つことは必要です。居場所として彼らだけのコミュニティも必要だが、(現在おかれている状況の)社会での自立を促した方が結果的に彼らのためになる。」と答えてくれました。この発言には、難民の立場に理解を示しつつも、同じ社会の一構成員として、見放してしまうわけにはいかないとの真の優しさを感じられます。

2つ目は、OEJABが運営する教育施設を職員の方に案内していただいたときのことです。美術の授業で使用される教室には、日本と比較にならないほど多くの画材が用意されていました。その理由について「子供達が何を使いたいかわからないから。」だと教える試みを感じます。

と「接点を持つことは必要です。居場所として彼らだけのコミュニティも必要だが、(現在おかれている状況の)社会での自立を促した方が結果的に彼らのためになる。」と答えてくれました。この発言には、難民の立場に理解を示しつつも、同じ社会の一構成員として、見放してしまうわけにはいかないとの真の優しさを感じられます。

2つ目は、OEJABが運営する教育施設を職員の方に案内していただいたときのことです。美術の授業で使用される教室には、日本と比較にならないほど多くの画材が用意されていました。その理由について「子供達が何を使いたいかわからないから。」だと教える試みを感じます。

てくれました。この細やかな気配りは、子供達が自由に発言することを促しています。

こうした対話のあり方はまさに「相互尊重・相互理解・相互扶助」の友愛理念を具現化したものであります。意見が違ふことは相手との距離をとる理由とはならないこと、意見を言いやすい雰囲気は作り出すものであること。私はこれらを常に意識するようになって

安心して住める場所そして生き甲斐

千葉大学医学部6年 金子 沙也佳

今回のオーストラリア派遣では、OEJABの職業訓練校や国連ウィーン事務局、連邦首相府、日本大使館の訪問など、大変貴重な体験をさせていただきました。プログラムの密度は大変濃く、朝から晩まで刺激を受ける毎日でした。その中でも一番印象的だったのは、OEJABが運営する職業訓練校、老人ホームの訪問です。

また、社会保障面も手厚く、個人の収入に合わせた

て、より相手に寄り添ったコミュニケーションを進められるようになりました。この実感を大切に、今後は友愛ユニオンのメンバーとの連携をより一層深め、研修での学びを活かした社会貢献活動の企画や実践に乗り出していくつもりです。

最後に、研修に関わっていただいたすべての方に感謝の意を表し、報告書を締め括らせていただきます。ありがとうございました！

利用料で老人ホームに入居することが出来ます。アロマを用いた匂いを重視するケアや天井が高く開放的な病室など、老人ホームとは思えないほど豪華な施設でした。看護師の人数も多く、一人一人に手厚いケアがされていました。日本とは違って州ごとに社会保障制度が運用されているようで、地域の特性に合わせた対応ができる点が興味深かったです。

OEJABでは老人ホーム、学生寮、職業訓練校、青少年教育施設、など幅広い事業を展開されています。一見バラバラな事業ですが、その志は共通なのだと知り、感銘を受けました。

最後に、本派遣の実現に尽力いただいた友愛の皆様、アテンドしてくださったニックをはじめとするOEJABの皆様、心より感謝申し上げます。また、素敵な同期や先輩方との縁を大切にしながら、今後も精進して参ります。本当にありがとうございました。

個性を理解すること

北海道大学農学部4年 矢野 由佳

誰一人として性格の被らない個性豊かな6人での旅。已上さんの言葉を借りれば「10日間の弾丸旅行」とても表したくなるほど忙しく充実した日々でした。

今回の研修ではOEJABが運営する施設をはじめとし、CTBTOなど複数機関を含む国連事務局、在オーストラリア日本大使館などを訪問しました。OEJABは難民の方がこれからオーストラリアで仕事をするための職業訓練の場を提供しています。その他にも介護施設の運営、学校をドロップアウトした生徒への居場所提供やヨーロッパの若者の活動支援も行っています。その幅広い活動内容に驚きましたが、授業の雰囲気も印象的でした。少人数で行われるため先生の目が

行きたとき、一人一人の事情や個性を把握しているようです。私が出発前に掲げた「一方通行にならない教育」の手がかりとして、生徒を個として理解することは重要であると言えるでしょう。

また、研修先のみならず、私は個性豊かなこのメンバーから学んだことが多くあります。この6人は非常に不思議な集まりでした。同じものを見ても全員が異なる視点で考え、異なる質問が出てきます。一時はまとまりがなく心配にもなりましたが、10日間行動を共にするうちに、それぞれの個性を把握し、自分の立ち位置とお互いの関わり方を考え、最終的には不思議な一体感が生まれたと感じています。意見が合わない

かったときは個々の主張を理解した上で「丸く収める」ことを学んだ私たちですが、これが友愛の一部になるだろうと考えています。グループをまとめてくれた大野さん、心の拠り所の金子さん、物事への関心が尽きない出倉さん、はつきりとした主張の裏に大きな20時間ほどのフライトでしたが、機内食が合計3食も出ました。上のポーチには、歯磨きなどが

2024年度会費納入のお願い

機関紙『友愛』と併せて、会費振込用紙を送らせていただいております。ご利用いただき、2024年度会費をお送りください。皆さまからお寄せ頂く会費が、友愛活動の源です。 よろしくお願い申し上げます。

*毎年同封しておりましたお願い状は、郵便法の関係で同封できません。悪しからずご了承ください。お問い合わせは友愛事務局までお気軽に

◆新緑の美しい季節。絵を描く友人に「この緑の濃淡、新芽の輝きを絵の具で表現できたなら素晴らしいでしょうね」と言ったら「それなら写真で充分。この緑から何を感じ、何を伝えたいかを表現するのが絵ですから」とあっさりと言われてしまいました。そうだなあ」と納得。同時に絵の表現力は皆無と気づきました。せいぜい私の唯一の表現手段「言葉」をもっともつと磨いて、正しい、美しい表現を目指そうと心に誓った次第。 (も)



OEJABシスラー前会長と一緒に。OEJABの歴史から現在の事業のことまで、幅広くお話を伺いました

連邦首相府内の、議会が行われる机で。一番偉い人の席に座らせていただきました！

ザルツブルクのモーツァルトハウスにて。黒白逆の鍵盤が良いですね

介護施設のベランダで。タバコを吸って良いのが印象的でした。寛容ですね